

FA 協会メールマガジン第 12 号

▼理事からのメッセージ▼

複利が全てではない ～お金を「使う」アドバイス～

福田 猛

お金には「貯める」「増やす」「使う」「守る」その他様々な機能があります。私たちファイナンシャルアドバイザーは中でも「合理的に増やす」話が中心になりがちです。長期的に世界の株式資産に分散し複利で……。確かにとても重要なことで日本では運用と言っても短期売買が中心だったところから、ここ数年で長期分散投資の機運が一気に高まっています。「オルカン」や「S&P500」に NISA 口座で積立投資を行っている投資家が増えています。しかし、よく内容を見ると使う予定のない現預金が 2,000 万円ありながら「オルカン」を 300 万円だけ投資している人等が散見されます。実質的な物価上昇率が 2% でオルカンが年率 7% の運用利回りだとしても、この場合だと年間に資産価値が 25 万円目減りすることになります。合理的なことをしようとしているけど、実際は非合理的な行動をしている。正に行動経済学の事例に出てきそうな話です。投資家は漠然とした不安を抱えているのでどうしても非合理的な行動をとりがちです。だからこそ、担当アドバイザーがファイナンシャルプランを立てて合理的なプラン作りと実行を支える必要があります。インフレ期はよりファイナンシャルアドバイザーの重要性が増しますので私たちが果たす役割が大きくなりそうです。

ここからが重要なのですが、「合理的に増やす」計画と実行をサポートすればお客様の安心感は増しますが、安心を提供するだけではダメだと思うのです。お金には「使う」という重要な機能があります。人生をより豊かなものにするには「安心」以外に「楽しむ」必要があります。お客様が人生でやりたいことをヒアリングし支出計画にしっかり反映させ、しっかり使っても安心できるプラン作りと実行サポートをしてこそファイナンシャルアドバイザーだと思います。そのためには必ずしも複利運用の提案だけでなく、配当・利金・分配金を受け取るプランの提案なども考えられます。複利を止めて受取りながら運用するのは 65 歳以降。何となく私たちにこのような先入観はないでしょうか。多くの方は年齢と共にお金を使わなくなります。私が担当するお客様には 40～60 歳でも配当・利金等を再投資せず受け取って人生を謳歌されている人がいます。

お客様のことをよく理解し「貯める」「増やす」「使う」等をバランスよくアドバイスすることでファイナンシャルアドバイザーとしての価値を最大化させることができるのだと思

います。